

平木橋

ひらきばし



文化財愛護シンボルマーク

名称	平木橋	時代	大正時代、大正4(1915)年
数量	1基	所在地	加古川市野口町水足(前ノ池)
全長	27.15m	管理者	加古川市
	径間(アーチの幅)15.15m、 拱矢(アーチの高さ)3.05m、 幅員1.18m	指定	加古川市指定文化財
構造	単径間煉瓦壁石造拱橋、高欄付	指定分類	建造物
材質	煉瓦、花崗岩	指定名称	平木橋
		指定年月日	平成22(2010)年3月5日



東側額石



西側額石



平木橋

平木橋は、現在、野口町水足の前ノ池に所在する大正時代の水路橋です。

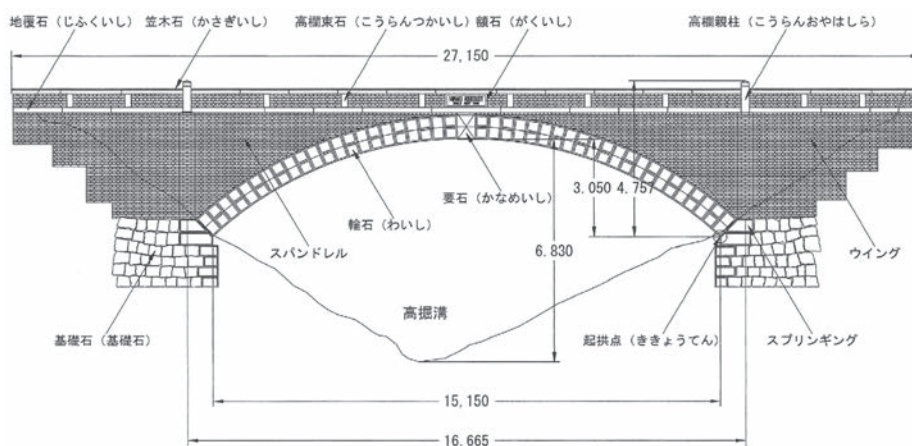
いなみの台地を灌漑することを目的として行われた淡河川・山田川疎水(淡山疎水)のうち、山田川疎水事業(明治44(1911)年着工、大正8(1919)年竣工)の一環として、江戸時代に開削された高掘り

溝を跨ぎ、平木池^{註1}に送水する水路橋として大正4(1915)年に建造されました。

しかし、平木橋と平木池は疎水事業の末端に位置していたために十分な水量を確保できず、昭和24(1949)年頃から放置されるようになっていました。その後、東播磨南北道路の建設に伴い、再び注目されるようになるとともにその再評価が進み、平成13(2001)年に「日本の近代土木遺産—現存する重要な土木構造物2000選」に選出され、翌年には近代土木遺産にも指定されました。そして、平成20(2008)年3月から平成21(2009)年3月にかけて、約1.1km西に位置する現在の場所^{註2}に移築保存され、平成22(2010)年に土木学会選奨土木遺産に選定されました。

この橋は、花崗岩の輪石を曲線形状に積み重ねたアーチと、煉瓦をイギリス積み(長手だけの段と小口だけの段を交互に積む方式)にした橋壁で形成され、その上に通水路があります。

東側(かつての上流側)の額石と中央地覆石には「平木橋」、「大正四年九月架之」、西側(かつての下流側)



平木橋の各部名称および計測値 (伊藤 2011 から転載)

の額石には「HIRAKI AQUEDUCT BUILD SEPT 1915」と刻まれています。また、輪石の下面には、工事請負者や石工の名前も刻まれていました。

平木橋は、煉瓦と石で造られた単アーチの水路橋として稀少性があるだけでなく、近代化のなかで水足地区が水不足という問題にどのように向き合ってきたのかを語る地域のシンボルとして重要なものです。

(文、写真/平尾)

註1 現在では埋め立てられており、住宅地となっています。
註2 前ノ池では6月下旬頃からハスの花が見頃を迎えます。

●参考文献

- 『水足史誌』水足史誌編纂委員会、加古川市野口町水足町内会(1990年)
- 『兵庫県の近代土木遺産』兵庫県教育委員会事務局文化財室(2006年)
- 「平木橋移設保存修理工事について」伊藤誠一郎(『建築研究協会誌』第22号、建築研究協会、2011年)

●キーワード

近代土木遺産、平木橋、水路橋、いなみの台地、淡山疎水、淡河川疎水、山田川疎水、高掘り溝、平木池、イギリス積み

●所在地/加古川市野口町水足(前ノ池)

- 交通/JR加古川駅発神姫バス「上新田北口」行または「六甲バター北」行「水足東口」バス停から北へ徒歩2分